

R5波照間島観光拠点施設意向調査報告書

〈ダイジェスト版〉

星とくらす 波照間島



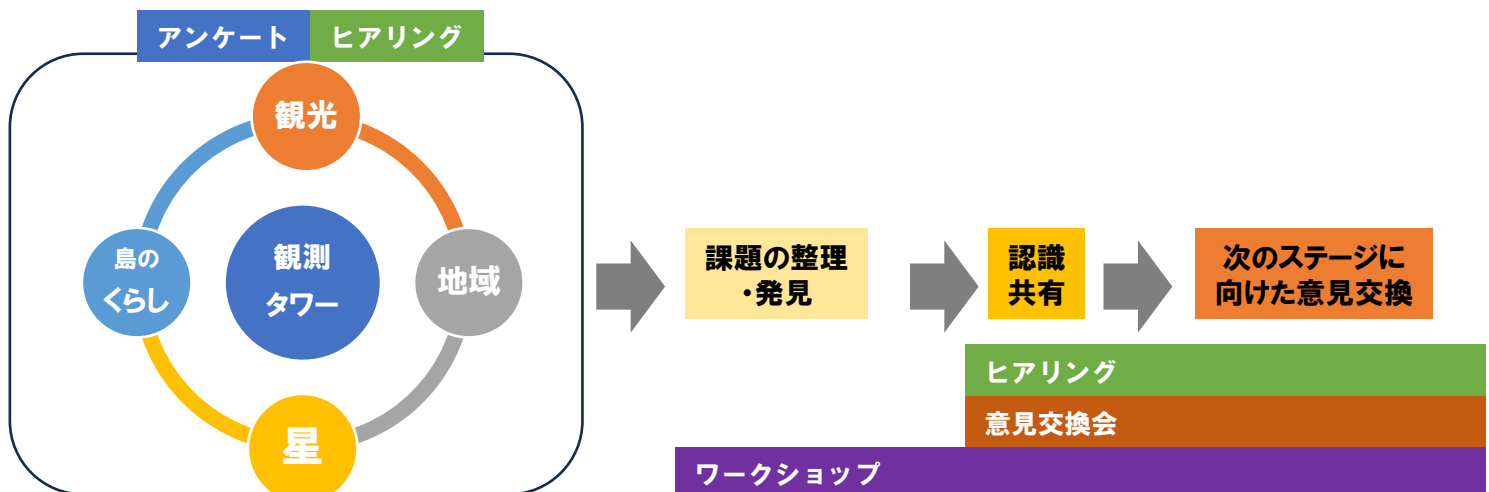
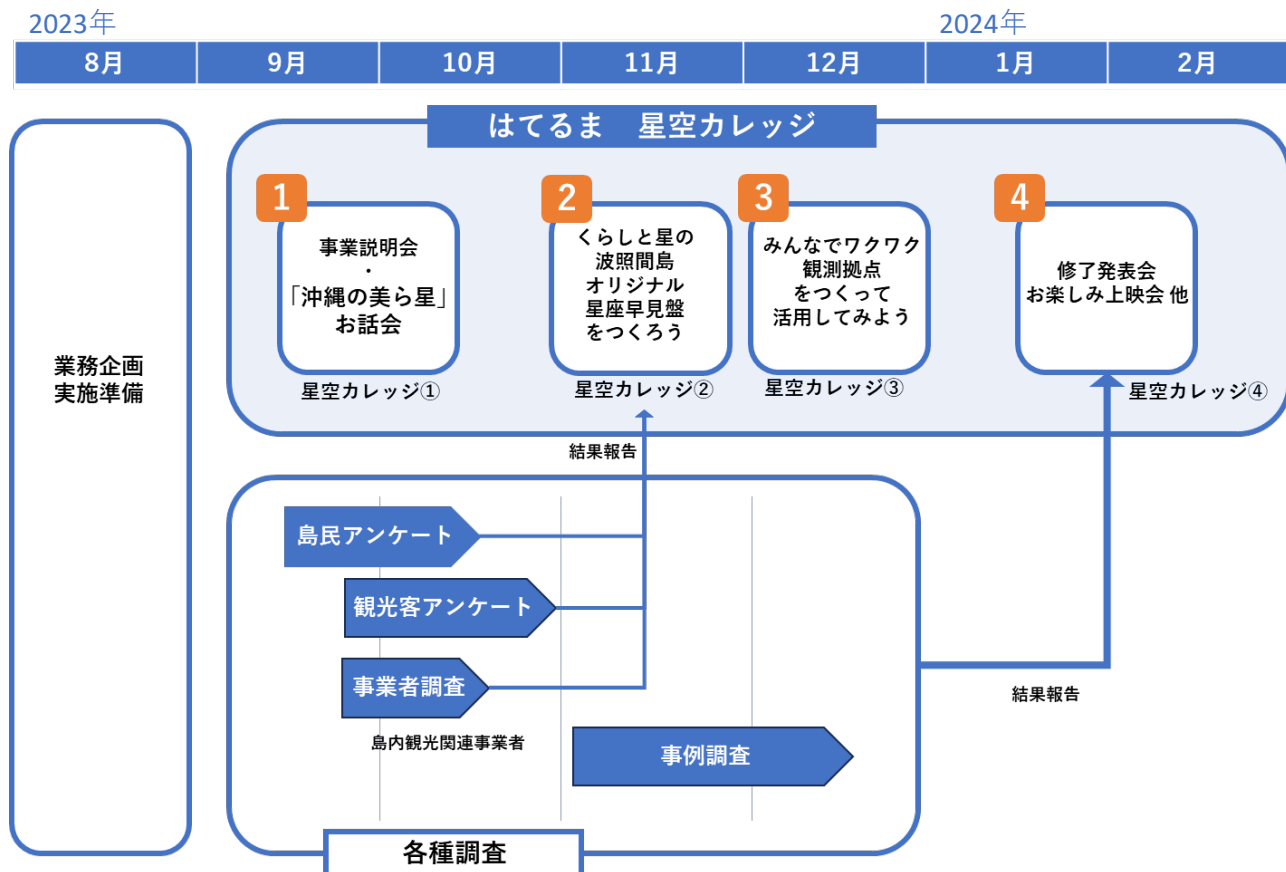
令和6年2月

株式会社ジャパンライフデザインシステムズ 株式会社アール・ピー・アイ
(共同企業体)

本事業の実施着眼



「波照間島 星空観測タワー」の老朽化に伴う同施設の今後の在り方、整備・運営の方向性を考えるにあたり、観測タワーそのものの進退だけでなく、幅広い視点で島民の皆さん、観光関連事業者、来島者の意見をうかがい、さらに共学の間（「はてるま 星空カレッジ」）を通じて課題の発見、認識共有、そして次のステージへのヒントや道筋をつくることを目指しました。



具体的な意向調査の方法

◆ 星空観測タワーに関するアンケート・個別ヒアリング調査

アンケート

ヒアリング

具体的な意向調査の方法

○ 全島民アンケート 有効回答数 **62**世帯

○ 波照間島内外 観光事業者・有識者 個別ヒアリング **30**件

《島内ご意見のべ **92**件》

○ 観光客アンケート調査 **193**件

その他、事例調査等

◆ 「はてるま 星空カレッジ」による足元財の再発見、共学の間

ワークショップ

意見交換会

島民向け講座・意見交換会 ～波照間島のくらしと星～

はてるま 星空カレッジ

「星と星空観測タワーに関するアンケート」を基に、波照間島のくらしと星について、島民のみなさんと一緒に学び、意見交換を行います。

★事業説明会＆「沖縄の美ら星」お話し会
2023年 9月26日 (火) 19:00～20:30
場所：波照間農村集落センター
講師：宮地 竹史さん
当日アンケート用紙を回収します。

★くらしと星の波照間島オリジナル星座早見盤をつくろう
2023年 11月15日 (水) 19:00～21:00
場所：波照間農村集落センター
講師：星野 望さん
「はてるま 星空カレッジ」のオリジナル星座早見盤をつくります。

★南極や火星から、波照間島をのぞいてみよう
2023年 12月 (予定)
場所：波照間農村集落センター
講師：村上天晴さん
「はてるま 星空カレッジ」のオリジナル星座早見盤をつくります。

★修了発表会 お楽しみ上映会 他
2024年 1月～2月(予定)

お問い合わせ：竹富町役場 自然課 0980-83-1306

○事業説明会・「沖縄の美ら星」お話し会

○島民ワークショップ：

くらしと星の波照間島オリジナル星座早見盤をつくろう

○島民ワークショップ：

みんなでワクワクの観測拠点をつくって活用してみよう

○終了イベント・報告会



▶ 皆さんの声の収集、整理、課題共有、意見交換を繰り返す中で見えてきた、

① 星空観測タワーが担ってきた役割

② 今後、期待される役割

そして、新たなステージに向けた課題解決のシナリオを次の3つの視点から報告します。

アンケート

ヒアリング

ワークショップ

意見交換会

ランドマークとしての 星空観測拠点に期待される役割



星の観測所
としての
役割

「星空観測拠点」の今後の在り方について

- ① 現在のタワーについての今後の方針
- ② 新たな拠点検討の際の方向性、課題整理

「星の島」
として特徴
を育てる
役割

ワークショップや波照間島ならではの星の学び
ツールにより「語ることができる」人を育てる。

・ 成果品紹介と制作意図・活用について

観光
スポット
としての
役割

今後の観光に対する意向ならび、課題、
新たなスポットの掘り起こしについて

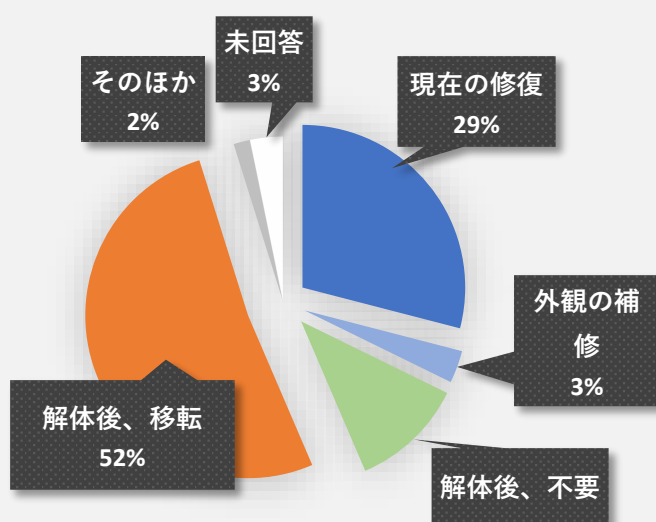
- ① 観光に関する内外のアンケート結果
- ② 観測タワー以外の観光財の整理

「星空観測施設」の今後の在り方について

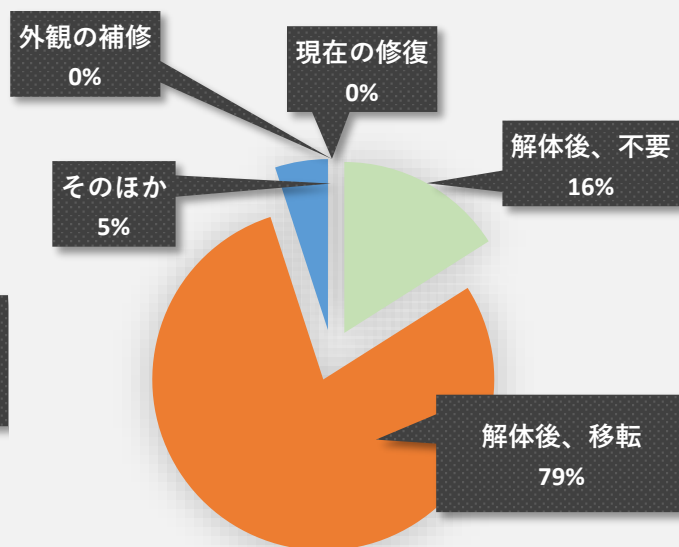
I 現在の観測タワーをどうするか。

Q 今後の星空観測タワーの取り扱いについて、お考えに近いものをお選びください。

波照間島島民アンケートより



波照間島事業者アンケートより



- 解体後に移転 5 割。現在の修復 3 割、解体後不要が 1 割。観光事業者のみでは 8 割が解体後移転希望。
- 20 代～40 代は現在の修復と移転で 2 分化されている。修復の主な理由は「もったいないから」。
- ※事業者アンケートの「その他」の回答内訳は「考えたことがない」。

● 移転希望の理由の多くは、「立地」 ①環境 ②アクセス 双方の声があがった（FA参照）

○立地環境

- ・今の場所は海に近すぎて塩害で風化してしまった気がするので新たにもう少し内陸部に建ててほしい。
- ・今の所は台風の影響が大きい。最南端の島から見る星空は魅力的だから。
- ・現タワーのある場所は高那海岸で一番潮のあがる所である。
- ・立地条件が悪い（塩害）、メンテナンスがしにくい（高すぎて灯台の明かりがくる、外観のメンテナンスもしにくい）。
- ・少し強い台風が来ると、内部に波による海水が入り、機材を破損させる。安全第一、最新の設備がよい。
- ・海岸に近いので北側の高台へ移動。

○アクセス

- ・もう少し集落に近かったら観光客や島民が気軽に歩いて足を運べるかもしれないから。
- ・現施設が観光に大きく貢献したのは事実ですが、施設を建てるには場所が悪かったと思います。
- ・海沿いではなく集落から徒歩で行ける場所が望ましいかと思います。
- ・観測タワーはあった方がよい。ただ今の場所は施設や設備にとって過酷すぎるし、集落から離れていてアクセスもしにくいので、集落近くに建てた方がよいと思う。

POINT!

●現状の場所にある限り、補修をし続けなくてはならない



意見交換会

今後の追加補修は希望せず、危険性が高まったときには取り壊しを希望。

ただし、語り継がれるシンボル、写真スポットとして
建物のシルエットを模した小さなモニュメントがあるとよい。

2 観測拠点としての機能、コンテンツ、たてものなど 波照間島にとってどのようなものが理想ですか？

観光客アンケートより

●観光で来る方の「波照間島の星」に対する期待

- ・普段は都会に住んでいるのであまり星は見えないです。そのため旅行ではなるべく星が見える時は観に行きます。
- ・大好きな沖縄に訪れた時に色んな島で空を見上げる。
- ・帰り道のふとしたときに見上げるけど大阪なので全然見えないからプラネタリウムみたいな星空で流れ星も見え
たし、すごく感動しました。
- ・星空観測タワーじゃなくても、寝転んで見られる場所があればいいなと思いました。

●まずは、寝転んで、夜空を見上げることへの憧れが原点

意見交換会

(宿泊業の方) 観光で来る方で、天の川を見たことがないという方もかなり多い。
うつわも大事だが、本当に安心して星空を見える場所を用意することが第一では。

○参考：観光客アンケートより

海は長くいると見慣れる！？ 今回の観光客アンケートで海の満足度は泊数が長くなると低下するが、星は長くいればいるほど満足度が向上。今後、暮らすように旅する長期滞在型を目指す際には、星はコンテンツの大きな要になりえる。

●波照間島の星に対する満足度

…	とても満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	未体験
日帰り	9.9%	1.2%	7.4%	0.0%	0.0%	81.5%
1泊	56.0%	22.0%	12.0%	2.0%	2.0%	6.0%
2泊	72.2%	22.2%	2.8%	2.8%	0.0%	0.0%
3泊	72.2%	22.2%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%
4泊以上	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

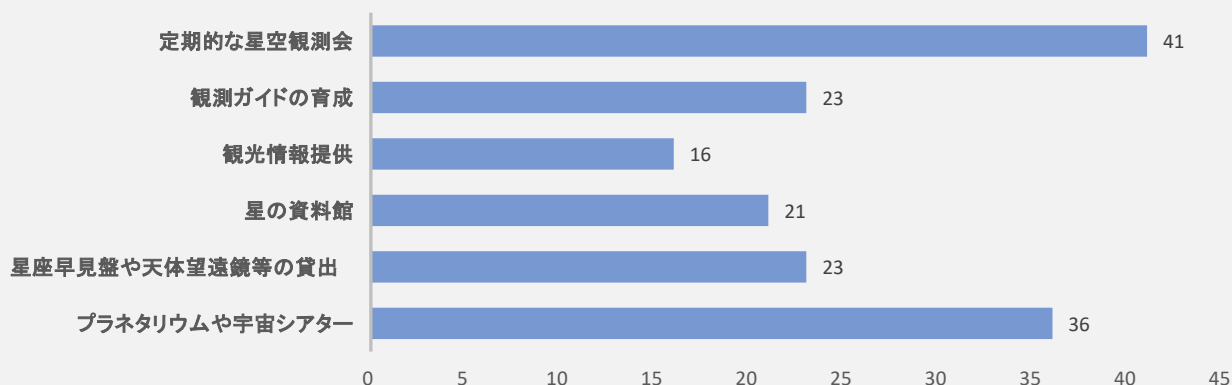
ハードの建設については慎重な意見が多数

ただし、新たな視点で星のすばらしさが伝わる空間ができれば……

- ・新たなハードの建設コスト、運営コスト、運営に関する疑問の声。人材、経営、送迎、運営方針などを懸念する意見が多い。
- ・集落に近い位置を希望する意見も多く、大きな施設でなくても、管理しやすいコンパクトなものでも十分との意見も多い。
- ・若い世代ほどハードの新築に積極的ではない。
- ・観光について現時点で積極的な増加に不安がある。
- ・一点集約型でなく、分散する提案もあり、その場所や形態は今後の検討課題。
- ・観光、住民を分けせず、住民（特に子供たち）にとっても親しみのある、学びとなるスペース（コンテンツ）の希望の声
- ・星空観光のシンボルとして象徴的な施設があってもよいのではないかと、新たな施設としてより明確なコンセプトがあれば建設してもよいのではないかという意見も上がった。
- ・天文（夜）だけでなく、展望（昼）も望む声も。

- 施設維持に関して、常駐の人材が必要となるなど、費用対効果について疑問視する意見も多く出た。
- はたしてどこまでの設備が波照間島に必要なか、またその維持費をどうするのか。
- 機能の提案として：カフェの設置、休憩スペースの設置、天体に関する資料館など。

Q もし今後、星空観測施設が再開（改築または新築）することになった場合、天体観測の設備のほかに、どのような設備やコンテンツがあるとよいと思いますか。



意見交換会

「人材育成」が最優先であるとの指摘もみられ、そのための要素もふまえたプラネタリウムはほしいという声や、大がかりな設備ではなく雨の日に「今日の波照間の星空」が映るものがあればよいとの意見も。

2 観測拠点としての機能、コンテンツ、たてものなど波照間島にとってどのようなものが理想ですか？

波照間島島民アンケートより

設備、コンテンツに関する島民の方のご意見

- ・星に関する **イベント** 等が企画されたいと思う。そのために **広場** があればよいのでは。
- ・室内だけでなく、**屋外に出て実際の星を見ながらの観測会** は是非定期的に開いて星座の数や美しさを見てもらいたい。それが **観光の目玉** になってほしい。そのためには、詳しい **ガイドの育成** は欠かせないと思う。
- ・星だけではなく、**星と島の自然や季節を繋げる何か** があれば、星に興味のない人も利用すると思う。
- ・プラネタリウムはあった方がよいとは思いますが、**資金がかかる設備を多く作るより** は、ガイドが実際の星空を見ながら **解説する観望タイムを重視** して、人材やアプリで体験を補助するなどに力を入れた方がよいと思う。
- ・**簡易宿泊施設** をつけてもよいと思う。星空を見ながら眠れるとか、飲み物を楽しめるとか。
- ・星だけでなく海のことも学べる場になったらよい！ **島の子たちのため** にも施設を使えたらと思う。

- 星を見る環境という観点からは、「場所」が確保できていればよく、星空ガイドのような形で各々の場所を活用すればよいという意見がある（季節によって最適な場所があるので、そのような場所が分散していて、ガイディングによって鑑賞できる）。
- 専門の星空ツアーを行う方がいる一方で、簡易的な形でもよいので、より多くの人材が確保され、常時活用できるようになると島内の意識も高まり、その場面で観光客との交流が促進できるのではないか。
- そのような人材を育成する仕組みを作るべきという意見も（竹富町の星空案内人育成事業とは別に、波照間独自で作ってもよいのではないか）。

POINT! ●期待することは……

アンケート

ヒアリング

意見交換会

安全に寝転べる場所

島のくらしと星との
つながりを感じられるどこでも見られる
+
特別感

風、雨除けができる

学びにつながるもの

スポットとしての存在感
(来島者の到達ポイントや写真映え)観光、島民の境なく、
だれもが星を楽しめる！

● 島民の皆さんのアイデア例

A 星を見るセーフティスペースがあればOK



B シンボリックな場所に……



意見交換会

どこで撮ったかが分かるような目印となるものが必要。

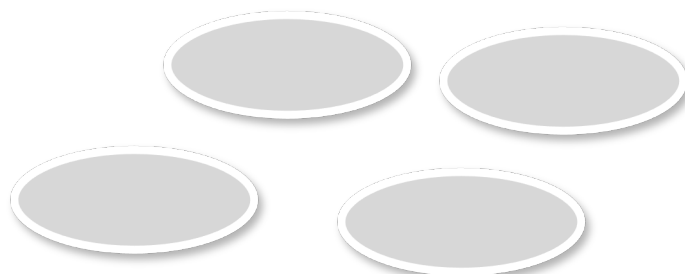
C 風よけと望遠鏡の保管、雨の日に星空を投影できる簡易プラネタリウム施設



意見交換会

夏のスコールと冬の寒い風を防げ、メンテナンスしやすいものを。

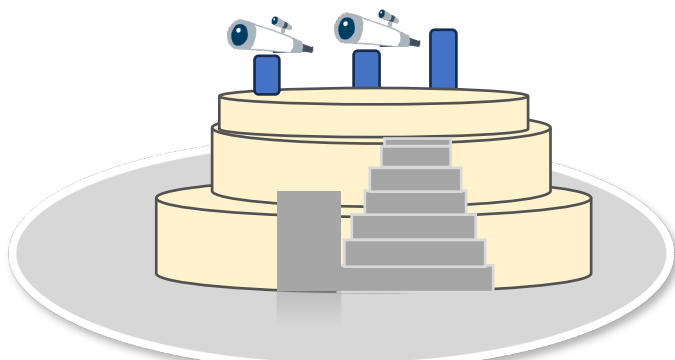
D コート（高登）盛のように、観測ポイントが各集落にあってもよいのでは？



意見交換会

一か所に絞って星のすべてを観ることはできないので複数個所に。

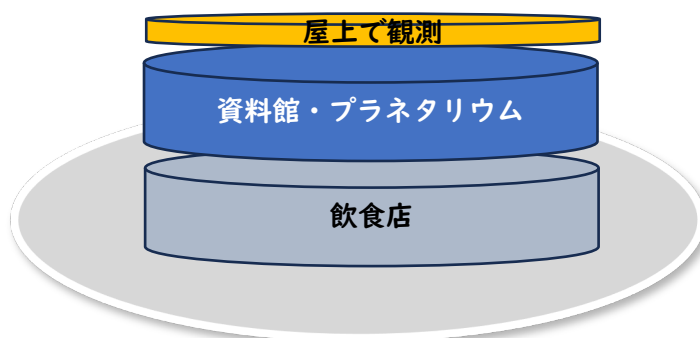
E 現在の観測タワーを解体し、その跡地に天文台を兼ねたコート盛



意見交換会

さらに望遠鏡を設置できるポールの設置。顕微鏡は内部に保管。

F いずれは…2階建の観測施設



2 観測拠点としての機能、コンテンツ、たてものなど波照間島にとってどのようなものが理想ですか？

POINT!

●理想的なものはどのようなもの？

意見交換会

場所によって季節ごとに見え方も違うし、
1か所で波照間島のすべての星を網羅できない。
→ 観測ポイントが各集落など複数個所にあってもよいのでは？
メインとなる拠点には施設があるとよい。



最低、南、北、東の3方にあれば
天気や状況にあわせてよい場所をご案内することができる。

3 どこにつくるのがよいでしょうか？

POINT!

意見交換会

施設あり：

- ①南のポイント：やぎ牧場の上（施設つくるなら）一周道路のすぐ上（北）。
灯台のほうまで煙がひらけている 騒音問題もクリア 南十字星が見える。

広場のみ：

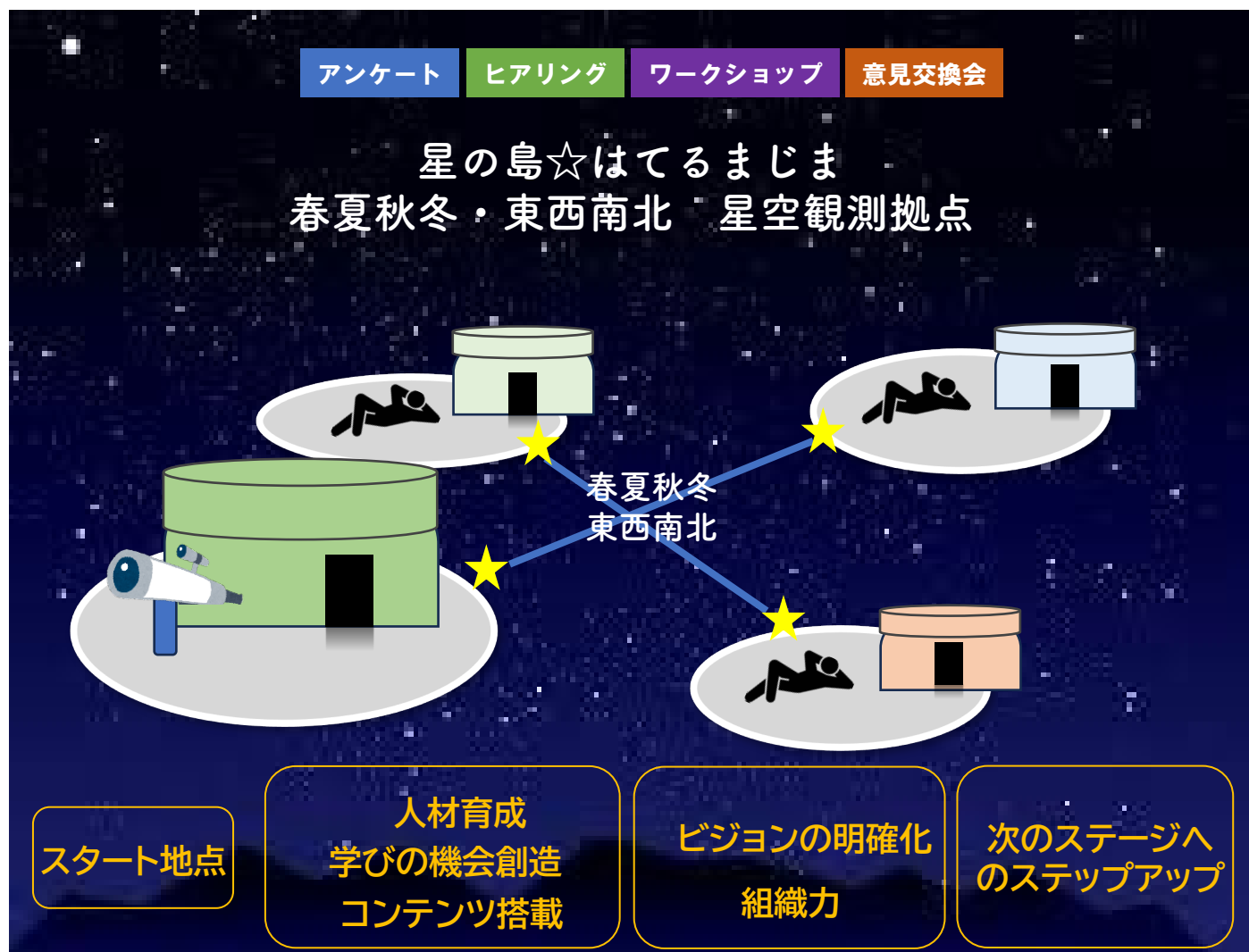
- ②北のポイント：マラリア学童慰霊の碑の横 西も見える 南十字星は見えない。

その他：底名溜池もよいが、道がガタガタで遠い（整備するならよい）。

現在の観測タワーの場所はモニュメントをつくって、観測スペースと撮影スポットに。
広場は、天の川を撮るスポットや星空イベント等の会場にもなる。

POINT!

次のステージに行くには、何が島の財なのかを深めるための情報収集や足元財の再学習（共学）からはじめ、テストトライアルの中で根のはったビジョンを育てていくことが大切。



波照間
島は星
の島！

「星の島」として特徴を育てる役割

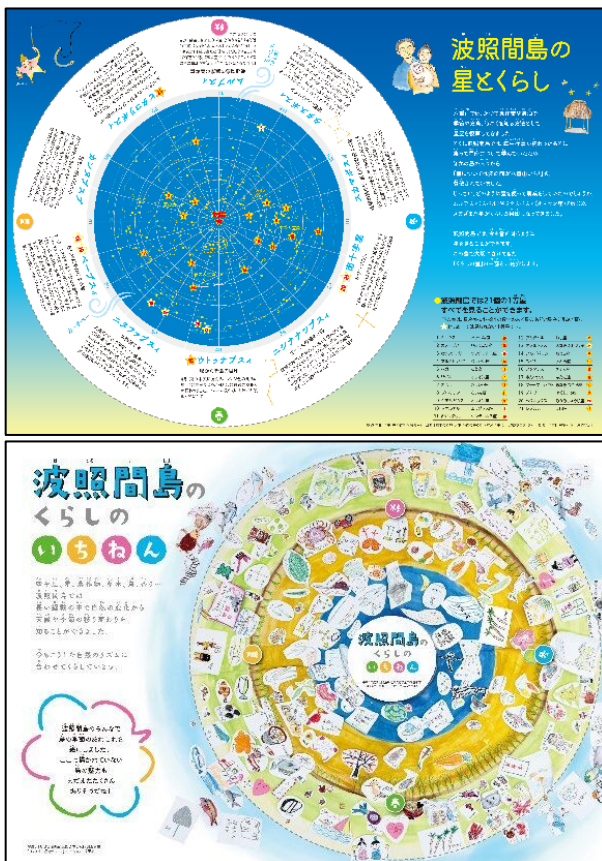
- 今回の島民アンケート調査で「波照間島の星のエピソード」を募集したが、島の星に誇りをもっている反面、具体的な波照間の星のエピソードをあまり聞くことができなかった。
- 一方、個別の聞き取り調査の中では一部の詳しい方から素晴らしい波照間独自の星のエピソードを聞くことができた。
- こうした中で、観光向きにPRしてきた南十字星だけでなく、波照間島のアイデンティティにはムルブシやタタスボシ、ペーブシといった星とのつながりが深く根ざしていたことが今回の聞き取り調査により浮き彫りになり、さらに共学・再学習の場を通して島内で共有することができた。
- かつて大切にされてきた星と島のくらしの絆を島の方々が改めて知ることが、今後の人材育成やおもてなしにつながるのではないかな。

POINT!

「星の島」としてのアイデンティティを再学習し、育てるツールを島の方々と一緒に作成

●くらしと星の早見盤

●星とくらす 波照間島小冊子 A5サイズ／16P

(QRコードからのダウンロードも可)
→広く活用可能

POINT!

学びの機会により波照間島の星への興味関心が高まる。

「語れる」人が増える。

島の宝の再発見
波照間島の星の魅力の底上げ
人材教育

星を通じて「農業を中心とした島である」ことや
島の人々がくらしで大切にしていることを
内外に共有することもできる（→マナー改善の一助に）。

⇒ 現在、課題となっている観光と島のくらしの隔たりにも寄与できるのではないか。

波照間島の星とくらし

空や風、星、植物の息吹や咲く様子、渡り鳥、回遊魚――。
八重山諸島では、昔から農作業や航海の指標として
自然の変化から季節の移り変わりを敏感に予知してきました。

ムルブスイ、タタスブスイ、ウトッナブスイ……
島ごとに独自の呼び名がついた星たちは
見晴らしのよいところで日々決まった時刻に観測され、
農作業の目安として役立てられてきました。

こうした星にまつわる唄や伝説は、
いまでも大事に語り継がれています。

ではなぜ、それほどまでに真剣に星と向き合ってきたのでしょうか。

それらをひもといていくと、
いつの時代も、農業を中心に自然と寄り添ったくらしが
この島にあったことがうかがい知れます。

長年、大切にされてきた、くらしの星たち。

人工的な明かりが少ない波照間島では、
いまでも昔と同じように星を眺めることができます。

受け継がれてきた知恵には、
いまの私たちのくらしにも必要なヒントが秘められているはずです。

星に学び、島を知る――。
きっとあなたがまだ知らない波照間島を、一緒に訪ねてみましょう。



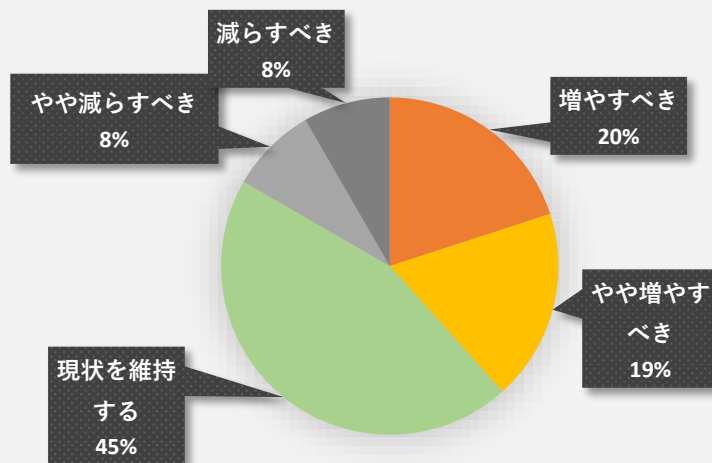
作成小冊子「星とくらす 波照間島」より

観光の
未来

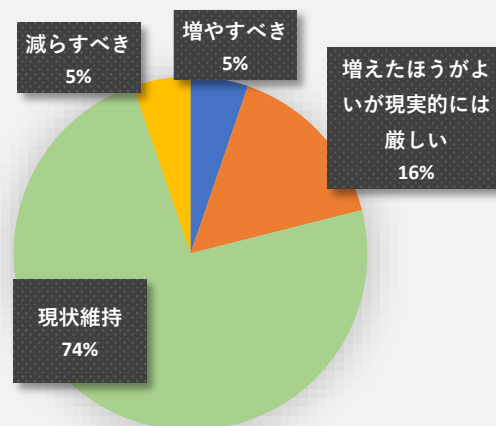
観光スポットとしての役割

Q 今後の波照間島の観光の受け入れについて、どうしたいと考えますか。

波照間島島民アンケートより



波照間島事業者アンケートより



●観光の受け入れについては現状維持

特に観光に関わる方からは「現状維持」が大半であった。

<それぞれの意見の代表意見の概要>

- 島民、観光事業者共に「現状維持」が多かったが、観光事業者にとっては現状維持「せざるおえない」という声も聞かれた（理由は次頁）。
- 島民アンケートでは、観光で来島される方々のマナーに対する不満や、島民との関わりの希薄さ、島の暮らしに対する理解・要望などが上がり、今後の観光誘致については「現状維持」「やや増やす」が多くなった。マナーや受け入れ態勢、島内消費等の課題について何とかしたいという声が多く聞かれた。一方で迎え入れる側の不足点についても多く指摘が上がった。双方の改善により今後、島民の方にとっても望ましい波照間らしい観光のあり方を目指すことができるのではないか。

POINT!

観光の受け入れについては現状維持が多数

ただし、「現状維持を希望」しているのではなく、
「現状維持せざるをえない」状況も。

①マナーに対する指摘

・島の暮らしへの理解や配慮不足が背景に

②島内の飲食をはじめ整備の課題

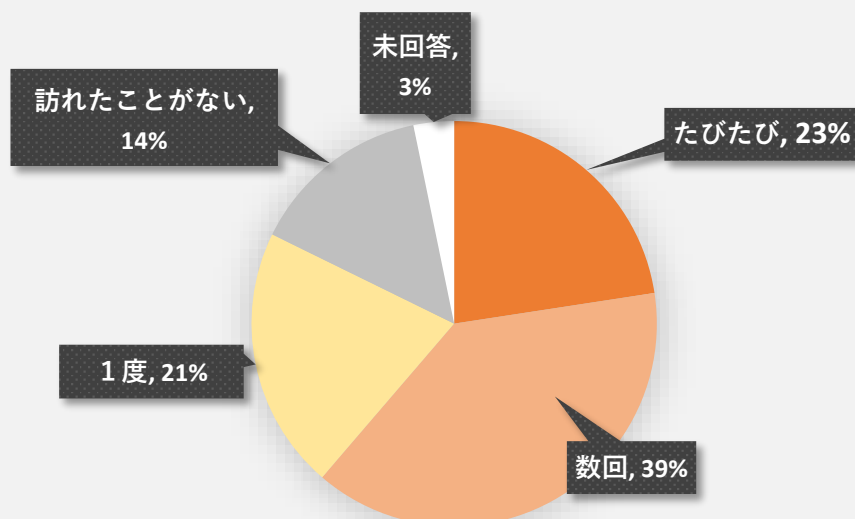
・迎え入れるキャパ不足やオペレーションが今のところ厳しい

- ①②が解決できたら、本当はもっとお客様に来てもらいたい…という観光事業者の方々の声も聞かれ、くらしと観光の共存をどうクリアしていくかの具体的な課題が浮き彫りになった。
- 今回の島民アンケートではほとんどの方が「波照間島に住み続けていきたい」と回答した。こうした中、住みやすい島であり続けることや人口減少に歯止めをかける上で新しい観光の在り方を考え、（ただ観光“NO”ではなく）育てることもとても大事なことはないか。

<参考>

Q 休館前、星空観測タワーをどのくらい利用されていましたか。

波照間島島民アンケートより



- 島民の多くの方が、観光そのものに興味がない、関わりがないと感じている中で、観測タワーには、「ご自身の興味で」という方が半数、残りの半数は親戚や家族、ご友人などへのおもてなしとして案内していたとコメントしている。
- あまり身近ではない「対：観光客」としてではなく、こうしたもっと身近な「大切な人」に波照間を案内することの延長としてもう一步、一緒に考えていく機会をつくっていくことが、これからの波照間の持続可能な観光の在り方や振興理解につながっていくのではないか。

星空観測タワーに代わる観光スポットの掘り起こし

- ▶ 観光スポットとしての役割を果たしてた観測タワーが使用できなくなったが、「タワーに代わるスポットが“ない”」ではなく、改めて身近にある島内の魅力を掘り起こし、磨いていくことが大事であることから、今回のワークショップでは島のおすすめスポット集めを行った。これらの意見をもとに、冊子や動画で紹介スポットとしてまとめた。

課題：コースの紹介ツールがないことや目印の不確かさ、ルートの未整備など。



- ◀ 今回のワークショップで集まった島のおすすめスポットを巡る動画は、スクリーンやデジタルサイネージなどでも上映可能。

